



学内広報



2003. 7. 23
東京大学広報委員会

総合研究博物館 「東京大学学位記」展Ⅱー博士研究にふれるー 平成15年7月19日(土)～9月7日(日)



(5 ページに関連記事)

目次

一般ニュース	2
総長の海外出張、評議会（7月15日（火））承認事項・報告事項、英国オックスフォード大学への派遣留学生の決定について	
部局ニュース	3
調理者研修会開催される、平成15年度谷川診療行われる、「江上波夫先生記念講演会」を開催、シンポジウム「レギュラトリーサイエンスの発展：官・学・産のフォーラムを目指して」開催される、シンポジウム「死生学と応用倫理」、「東京大学学位記」	

展Ⅱー博士研究にふれるー内覧会・レセプション

掲示板	5
広報センター臨時休館のお知らせ、第二食堂建物地下プールの特別公開、樹芸研究所体験セミナー「科学の森でわくわく体験」のご案内、夏休み「サイエンス&ものづくり」講座2003 鏡箱をつくる ～かいま見る無限反射の世界～、原子力研究総合センター第12回技術発表会開催のお知らせ、8月の保健センターの診療・健康診断の日程について	
淡青評論「六年後」	8

≡ 一般ニュース ≡

総長の海外出張

平成15年7月25日（金）～平成15年8月1日（金）
「シェフィールド大学日本研究センター40周年記念シンポジウム」招待講演（英国）及び東京大学と欧州原子核研究機構（CERN）との間における学術交流に関する協定の更新に関する覚書の調印（スイス）

評議会（7月15日（火））承認事項

東京大学評議会内規の一部改正

評議員に事故があるときの代理出席規定において、当該評議員として情報理工学系研究科長を加えることに伴い所要の改正が行われた。

附 則

この規則は、平成15年7月15日から施行する。

東京大学保健センター規則の一部改正

平成14年度から、保健委員会が廃止されたことに伴い、東京大学保健センター規則に関し所要の改正が行われた。

附 則

この規則は、平成15年7月15日から施行し、改正後の東京大学保健センター規則の規定は、平成14年4月1日から適用する。

大学間学術交流協定

- ・東京大学と欧州原子核研究機構（CERN）の間における学術交流に関する協定の更新

評議会（7月15日（火））報告事項

大学間学術交流協定

- ・東京大学と中国科学技術大学との間における学術交流に関する大学間協定の更新
- ・東京大学とシスタン・バルチェスタン大学（イラン）の間における学術交流に関する大学間協定の更新
- ・東京大学とパドヴァ大学（イタリア）の間における学術交流に関する大学間協定の更新
- ・東京大学とロシア国立人文大学との間における学術交流に関する大学間協定の更新

英国オックスフォード大学への派遣留学生の決定について

本学から英国オックスフォード大学リンカーン・カレッジへ派遣する学生が決定し、7月8日（火）の学部長会議において佐々木総長より伝えられた。

この学生派遣は、佐々木総長とオックスフォード大学との親密な交流を通じて企画され、法学政治学研究科・法哲学講座、チェン・ポール教授の尽力により実現したもので、学部後期課程に在籍する日本人学生に対し、オックスフォード大学リンカーン・カレッジにおいて、その特色ある教育の機会を与え、国際色豊かで専門分野においても国際的にレベルの高い学部学生の育成を目的としており、学内で募集・選考のうえ、最終的に1名が選ばれた。

この1名は、教養学部・総合社会科学科・3年生の山本鉄平。専門分野は国際関係論（特に国際政治経済論、ヨーロッパ統合論）。派遣期間は平成15年10月から平成16年9月までの1年間で、世界各国から選抜された学生とともに英国オックスフォード大学リンカーン・カレッジが用意するカリキュラムを受講することになる。派遣に要する経費（渡航費、授業料及び学生寮に係る経費）は、東京大学学術研究奨励資金から支出される。

本人の抱負

このたび、英国オックスフォード大学リンカーン・カレッジへ派遣していただけることとなり、非常にありがとうございます。特に、このような貴重な機会を与えてくださった佐々木総長に対しては感謝の念に堪えません。ヨーロッパ統合に係わる政治経済を専門分野とする私にとって、オックスフォードという場は理想の環境です。第一線の先生方から教えを受けられるのみならず、現在のヨーロッパ各国が置かれた政治・経済状況や政治文化を肌で感じる事が出来ます。他から集まってくる有能な学生達と議論を交わし、寝食を共にすることは、今後、私が研究者への道を歩む上で何物にも換え難い経験となるでしょう。現地で求められる水準は高く、相当の勉強量をこなさなければならないと聞いていますが、可能な限りのことを吸収した上で東京へ戻って来たいと考えています。ありがとうございました。

教養学部・総合社会科学科・国際関係論分科 3年

山本鉄平

≪ 部局ニュース ≫

調理者研修会開催される

学生部では、例年、保健体育寮（スポーティア）及び検見川総合運動場の夏の繁忙期前に、各寮管理人及び運動場調理従事者が一同に会して「調理者研修会」を開催しており、今年度も6月24日（火）に御殿下記念館研修室において実施された。

講習は、栗本孝子講師（管理栄養士、厚生課寮務掛）により、食の安全性や健康増進法等に関する講義が行われた。また、普段の業務において抱えている問題点、法人化後の寮運営等について、活発な意見交換が行われた。

この講習での成果を体験すべく、皆様もこの夏は各保健体育寮及び検見川総合運動場を是非ご利用ください。



栗本孝子講師による講習の様子

（学生部）

平成15年度谷川診療行われる

恒例の谷川診療が7月5日（土）、群馬県利根郡水上町の谷川会館において行われた。

この診療は、谷川寮（スポーティア谷川）の運営等で日頃お世話になっている地元谷川地区の方々へのお礼の気持ちから、本学運動部出身の医師等が中心となって毎年一回行っているものである。

昭和34年から開始されて以来、今回で43回目（この間2回休止）となるが、毎年この診療を心待ちにしている方がおられるほど地元根づいた行事となっており、今年の診療者は54名であった。

（学生部）

「江上波夫先生記念講演会」を開催

昨年11月11日に96歳でお亡くなりになられた、東洋文化研究所元所長、名誉教授、文化勲章受章者である江上波夫先生の学問的業績を偲ぶ記念講演会が、去る6月14日（土）に安田講堂で開催され、一般の聴講者450名余りを得て盛会となった。

この記念講演会は、我が国はもとより、東アジア諸国の学会並びに一般の人々に大きな影響を与えたいいわゆる「騎馬民族説」について、江上先生のご逝去後まだ日の浅い今、江上説の中心をなす日本の弥生時代と古墳時代、そして同時代の東アジアについて、最近の研究はどこまで進んでいるのか、江上説との関連で特に問題とすべきことは何か、これらを知り、江上説の再評価を試みようとして広く一般に公開し、東洋文化研究所主催の下、15団体の後援・協力を得て開催されたものである。

記念講演会は、午前と午後の部に分かれ、午前の部では「今日進行中の日本隊による海外発掘調査」と題し、赤澤威（国際日本文化研究センター教授）「ネアンデルタールを掘る－シリア、デデリエ遺跡」、西秋良宏（東京大学助教授）「メソポタミア初期農耕の村落－シリア、テル・セクル・アル・アヘイマル遺跡」、松本健（国士舘大学教授）「大洪水後に王権の降った都市－イラク、キシユ遺跡」、山下守（中近東文化センター研究員）「ヒッタイトの地方都市－トルコ、カマン・カレホユック遺跡」、青柳正規（東京大学教授）「アウグストゥスの別荘－イタリア、ソンマ・ヴェスヴィアーナ遺跡」、加藤泰建（埼玉大学教授）「アンデスの黄金文化－ペルー、クントゥル・ワシ遺跡」による現在進行中の海外発掘調査について報告が行われた。

午後の部は「江上波夫先生記念講演会」と題し、主催者側を代表して田中明彦東洋文化研究所長から挨拶が行われた後、大貫良夫（東京大学名誉教授）「江上先生の人と学問」、林俊雄（創価大学教授）「ユーラシア学研究者としての江上波夫」、菅谷文則（滋賀県立大学教授）「長城内外での騎馬と遊牧はいつから始まったか」、百々幸雄（東北大学教授）「東アジアの中の日本列島－人類学の視点－」による講演が行われた。

今回の聴講者のほとんどが年配の方であったが、中にはメモをとるなどして、すべての報告・講演に熱心に聴き入り、未だ江上説に対する関心の高さを窺い知ることができた。

講演会は16時30分頃に終了し、引き続き場所を上野東天紅に移して懇親会が行われた。江上波夫先生にまつわるエピソードに話が弾み、和やかな雰囲気の中、20時頃終了し、散会となった。



講演会の様子

（東洋文化研究所）

シンポジウム「レギュラトリーサイエンスの発展：官・学・産のフォーラムを目指して」開催される

表記シンポジウムが、7月5日（土）に、経済学研究科棟第1教室にて（財）薬学振興会主催、大学院薬学系研究科共催で開催され、大学、国立研究所、企業、行政、市民団体等、学内外から約280人の参加者があった。

最初に桐野薬学系研究科長から、「東京大学大学院薬学系研究科は、開かれた大学として、社会との関係を重視し、2001年度に創薬理論科学、医薬経済学、2002年度にファーマコ・ビジネス・イノベーションなどの寄附講座をスタートさせている。また、2004年度には、医薬品に関するレギュラトリーサイエンスとしての「医薬品評価科学」の研究室を開設する計画である」旨が述べられた。

引き続いて、Part I「レギュラトリーサイエンスとレギュレーター：社会における実践と評価」、Part II「レギュラトリーサイエンスとアカデミア：理論と実践をつなぐ人材養成のあり方」、Part III「レギュラトリーサイエンスとインダストリー：科学的主体として規制をどう捉えるか」として、厚生労働省や関連する薬事行政担当機関、US-FDA、大学、日系と外資系の製薬企業からの、具体的な現状と、この領域への強いニーズがあることが報告され、活発な議論が交わされた。最後に将来の発展へ向けての提言が発表された。

レギュラトリーサイエンスは、広くは、原発、遺伝子組み換え食品などの領域をもカバーするものであるが、今回は、医薬品に関する話題に限定した。ゲノム情報もちいた創薬や臨床試験がすでに世界的なレベルで動いている一方、レギュラトリーサイエンスや評価科学の重要性が認識されるようになり、これらは互いに車の両輪の関係にある。日本では1987年から、当時の国立衛生試験場（現・国立医薬品食品衛生研究所）・所長・内山充博士が、他に先駆けて、レギュラトリーサイエンスの重要性と発展の必要性を提唱してきた。今回のシンポジウムで内山博士は全体を総括され、アカデミアを含む各界における認識の深まりと発展の兆候に喜びと期待を示された。

また、シンポジウム終了後、フォレスト本郷にて懇親会が開催され、大変な賑わいの中、会を終了した。



シンポジウム会場の様子

(大学院薬学系研究科・薬学部)

シンポジウム「死生学と応用倫理」

6月6、7、21日の3日間にわたって、人文社会系研究科の2つの大きな企てである、21世紀COEプログラム「死生学の構築」と応用倫理教育プログラムの共同主催によるシンポジウムが行われた。6、7日の両日、文学部の1番大教室と教官談話室で行われた第1部は、終始盛況で熱気を帯びた2日間となった。初日はオックスフォード大学のトニー・ホープ、ジュリアン・サヴァレスキュの2人の教授により、「いのちの始まり」をめぐる生命倫理、医療倫理を主題とする公開講演が行われた。司会は医学部の赤林朗氏である。2日目は諸学問分野でこの問題に取り組んできた研究者による問題提起を受けて、海外からの参加者を交え、「いのちの始まりと死生観」をめぐり、参加者を制限して長時間にわたる討議が行われた。

大阪大学の荻野美穂氏（女性史）は「いのちの始まり」の問題に対して、女性の自己決定を訴えてきたフェミニズムが障害者の排除の趨勢に直面するなど、新たな論理の構築を余儀なくされているという展望を示した。障害者との交流から学んできた八幡英幸氏（倫理学）や立岩真也氏（社会学）から、出生前診断や着床前診断などを視野に入れた鋭い論理が提示された。「いのちの始まり」をめぐる従来の議論の枠組みを超えるために、歴史や文化によって変異を示す死生観のヴァリエティを参照することが一つの突破口になるのではないかという論点が出口頭氏（文化人類学）や島蘭進氏（宗教学）によって論じられ、検討された。

ヒレル・レヴィン氏、清水哲郎氏、熊野純彦氏、ヘレン・ハーデカー氏による問題の整理を経て討議は結ばれた。懇親会では廣川信隆医学部長が、文学部との交流の重要性についてユーモアを交えつつ力説された。

21日の第2部「いのちの終わりと死生観——新しい死のかたち・変わらない死のかたち」は、医学部大講堂で行われたが、300席はたちまち満員になり、550部用意した資料集も不足してしまい、階段から床まで聴衆で埋められてしまう事態となった。稲上毅文学部長の挨拶に続き、竹内整一氏（倫理学）の司会により、5人のパネリストが今日の「死のかたち」について、それぞれの経験を踏まえ、また学問的洞察を踏まえてその特徴を論じ合った。小松美彦氏は医療の介入が死を個に閉じこめてしまう事態について、田口ランディ氏ははたらく人こそノーマルだとされる社会に見捨てられたと感じる人について、中神百合子氏は死の床にあって「その人らしい」死に方をとげていく人について、西垣通氏（情報学）はいのちを機械として科学的世界観の限界を超える視点について、鷺田清一氏（臨床哲学）はひとつひとつの間の出来事として死をとらえる「変わらない」立ち位置の重要性について語った。

多彩な論点を受け、司会の竹内氏の論点整理に従って、また、用紙に書かれた聴衆からの多くの質問を整理しながら議論が進められ、熱気のうちに閉幕となった。懇親

会も多く参加者を得て、にぎやかに行われた。似田貝香門副学長の挨拶を受けて、さまざまな場で現代の死について考えてきた聴衆からの感想を交え、楽しい中にもさらに議論の深まりも見られたようであった。



6月21日、第三部「新しい死のかたち、変わらない死のかたち」医学部講堂のヒナ段に居並ぶパネリストたち。会場の熱気に負けない“熱い”議論が展開された。

(大学院人文社会系研究科・文学部)

「東京大学学位記」展Ⅱ 一博士研究にふれる一内覧会・レセプション

7月17日(木)16時より、総合研究博物館において特別展示「東京大学学位記」展Ⅱの内覧会・レセプションが行われた。

今回の展示はさまざまな分野に及ぶ17の博士研究を、高校生にもわかる言葉で解説しており、佐々木毅総長や森巨元総長をはじめ多数の出席者が、展示を担当した高槻成紀助教授の説明を聞きながら、多岐に及ぶ研究の足跡を見て回った。

その他にも、女性博士第一号である保井コノ博士の軌跡、エチオピアで現代人の祖先として最古の化石が発見された事に関連して、発掘風景や頭部化石の写真をパネルで紹介し、入口付近には震災後にお見舞いの品としてベルギーより送られた大地球儀を展示している。

内覧会・レセプションは盛況のうちに19時に終了した。

会期：平成15年7月19日(土)～9月7日(日)
毎週月曜日休館
(ただし、7月21日(月)は開館、7月22日(火)は閉館)

開館時間：10時～17時(入館は16時30分まで)
(7月31日(木)は21時まで開館(入館は20時30分まで))

会場：総合研究博物館

入場料：無料

ハローダイヤル：03-5777-8600

URL：http://www.um.u-tokyo.ac.jp

(総合研究博物館)

≡ 掲示板 ≡

広報センター臨時休館のお知らせ

広報センターは、次のとおり臨時休館します。

平成15年8月11日(月)～8月15日(金)

(広報委員会)

第二食堂建物地下プールの特別公開

第二食堂建物地下プールを次の期間、特別公開します。

期 間：7月22日(火)～8月8日(金)の平日
8月18日(月)～8月22日(金)

時 間：11時30分～14時

第二食堂建物地下プールを使用する際、学部学生は学生証、大学院学生・教職員は運動会員証を持参してください。

また、貴重品は持ち込まないでください。

※運動会員証は運動会受付にて発行しています。

準会員(院生・研究生他) 2,500円

特別会員(教職員) 3,000円

お問い合わせは、学生部学生課体育第一掛(運動会受付)まで。(内線22509～22511)

(学生部)

樹芸研究所体験セミナー「科学の森でわくわく体験」のご案内

大学院農学生命科学研究科附属樹芸研究所では、樹芸研究所体験セミナー「科学の森でわくわく体験」の参加者を募集しています。昆虫観察、コースター作りなど、ご家族で楽しめる内容です。スポーティア下賀茂に宿泊して、海や山、温泉など南伊豆の豊かな自然を満喫してください。多くの方の参加をお待ちしております。

日時 8月22日(金)13時～16時半

人数 25人

会場 樹芸研究所青野研究林(静岡県賀茂郡南伊豆町)

内容 ・南伊豆の木や昆虫を観察しよう
・丸太をきってコースターを作ろう
・木登り

*セミナーの参加費無料、(保険料100円)

*宿泊は、樹芸研究所に隣接した運動会スポーティア下賀茂をご利用ください。

*セミナーの申し込み、スポーティア下賀茂宿泊の予約は、学生部体育第一掛窓口で受け付けます。

*セミナーについての詳細、ご不明な点等、樹芸研究所にお問い合わせください。

(学生部体育第一掛の窓口にはパンフレットがありますので、ご自由にお持ちください。)

学生部学生課体育第一掛 (内線22511)

樹芸研究所 TEL 0558-62-0021
e-mail asano@uf.a.u-tokyo.ac.jp
(大学院農学生命科学研究科附属樹芸研究所)

夏休み「サイエンス&ものづくり」講座2003 鏡箱をつくる ～かいま見る無限反射の世界～

総合研究博物館では、小石川分館で小学4年生から中学3年生までを対象とした講座、「鏡箱をつくる～かいま見る無限反射の世界～」を開催します。

「鏡箱」は、薄い鏡の板の箱に、隙間から入る光が内側に向いた鏡に反射してふしぎな模様となり、それが無限に広がる空間を映し出します。

この講座は、平成15年度の文部科学省の大学等地域開放特別事業『大学ジュニアサイエンス&ものづくり』の一環として、昨年度から行っております。

詳細は以下のとおりとなります。

開催日程：計4回

8月21日(木)

I. 10:00～12:00 / II. 14:00～16:00

8月22日(金)

III. 10:00～12:00 / IV. 14:00～16:00

場 所：総合研究博物館 小石川分館
〒112-0001 東京都文京区白山3-7-1
丸ノ内線茗荷谷駅下車徒歩8分

講 師：石井理絵
[東京芸術大学大学院先端芸術表現科
修士1年]

湯浅万紀子
[東京大学大学院人文社会系研究科文化資源
学博士課程]

定 員：各回20名(先着順)
対 象：小学4年生から中学3年生まで
(保護者の付き添いも可)

参 加 費：無料
応募方法：官製往復ハガキに住所・氏名・電話番号・年齢・希望の回(第2希望まで可)を明記の上、東京大学総合研究博物館に郵送してください。受講の可否、当日の持ち物などは折り返し通知します。

締め切り：8月12日(火)
※各回の応募者数が20名に達し次第、それぞれの締め切りとします

主 催：総合研究博物館
<http://www.um.u-tokyo.ac.jp/>

申し込み・問い合わせ先：
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学総合研究博物館 夏休み講座係
Tel. 03-5841-8452 Fax. 03-5841-8451

(総合研究博物館)

原子力研究総合センター第12回技術発表会開催のお知らせ

原子力研究総合センターでは、技術職員が日々着実に積み重ねてきた技術の成果を毎年発表しており、今年で12年目を迎えました。皆様のご来聴をお待ちしています。

日時 9月1日(月) 13:15～16:45
場所 原子力研究総合センター本館 5階
問い合わせ先 事務部庶務掛または伊藤、澤幡
E-mail syomu@rcnst.u-tokyo.ac.jp
ito@rcnst.u-yokyo.ac.jp
sawahata@kaihoken.tokai.jaeri.co.jp
電話 03-5841-2935(庶務掛)

プログラム

開会挨拶 13:15～13:25
司会・進行 伊藤誠二、澤幡浩之

原子力研究総合センター長(技術部長兼任) 中澤正治

発表及び話題提供
(講演:15分、質疑応答5分、話題提供30分)

1. M A L T の現状
タンデム加速器研究部門 中野忠一郎
2. パルサーを用いたエネルギー較正方法の検討
共用設備管理部門 森田 明
3. 高温質量分析計の技術開発と今後
共用設備管理部門 安本 勝
4. 話題提供「コンドライト隕石の化学組成」
全国共同研究部門 研究機関研究員 尾崎大真
----- 休憩 15分 -----
5. 話題提供「宇宙線生成核種Be-10による南大東島の土壌の年代測定」
タンデム加速器研究部門 研究機関研究員 前島勇治
6. 大学開放研におけるGe-SSDのセッティングの方法
全国共同研究部門 石本光憲
7. M A L T P I X E システムのバックング材に関する基礎データの蓄積
タンデム加速器研究部門 中野忠一郎
8. 酸共存放射線劣化溶液系へのU(VI)の担持
共用設備管理部門 池田秀松

閉会挨拶

懇親会 17:30～ 会場：原子力研究総合センター第2会議室(本館5階)

(原子力研究総合センター)

8月の保健センターの診療・健康診断の日程について

次の期間は、下表のとおり業務を行います。

■ 本郷支所：期間 8月1日（金）～8月29日（金）

診療科等	受付日時	対象者
内科	毎日（月～金）10：00～11：45	学生・職員
精神神経科	月～金 10：00～12：00 13：00～16：00 ※休診日ありのため、事前に電話にて問い合わせ・予約のこと	学 生
歯科口腔外科	8月5日（火）10：00～12：00 8月6日（水）10：00～12：00 13：00～15：00 8月7日（木）13：00～15：00 8月19日（火）13：00～15：00 8月21日（木）10：00～12：00 8月29日（金）13：00～15：00	学 生
耳鼻咽喉科	8月4日（月）13：15～15：00 8月7日（木）13：15～15：00 8月11日（月）13：15～15：00 8月18日（月）13：15～15：00 8月25日（月）13：15～15：00	学 生
新規採用者 健康診断	8月6日（水）、20日（水）9：30集合	職 員
学生健診 追加検査	8月5日（火）13：15集合 8月12日（火）13：15集合 8月19日（火）13：15集合 8月21日（木）9：30集合 8月26日（火）13：15集合 8月28日（木）9：30集合 （8月12日（火）はレントゲン撮影なし）	学 生
放射線取扱者 健康診断	8月27日（水）10：00～11：00	学生・職員

■ 駒場支所：期間 8月1日（金）～8月29日（金）

診療科	担当医	診療日	診療時間
内科	張 石川 安東	毎週（月） 毎週（水） 毎週（金）	10：00 、 12：30
精神神経科	丸田 佐々木 高橋 滝川 梅景	8月4日（月）、8月11日（月）、8月18日（月） 8月6日（水）、8月13日（水）、8月27日（水） 8月20日（水） 8月20日（水） 8月1日（金）、8月8日（金）、8月15日（金）、8月29日（金）	
歯科 整形外科 皮膚科	休 診		

■ 柏健康相談室：期間 8月1日（金）～8月29日（金）

診療科	受付日時	対象者
内科	毎週（月）（水）（金）、8月5日（火）、8月19日（火）15：00～17：00	学生・職員
精神神経科	毎週（木）13：30～16：30 毎週（金）13：30～16：30	

（保健センター）

六年後

国立大学では中期目標・中期計画を策定することが求められている。大学の依ってたつ理念と目的を宣言し、それに照らして現状を反省し、6年間の将来に渡って理念と目的を実現するための目標・計画を立てるのである。6年というのは、大して遠い将来ではない。しかし、6年前の東大がどうであったかを振り返ると、その変化は決して小さくない。当時、工学部に所属していた私のごく周辺に起こったことに限っても、例えば情報学環・学際情報学府という組織が立ち上がるとは予想もしなかった。もちろん、それより何年も前から、情報学関係の新組織を作りたいという一部の人達の希望があり、また実際関係者が集まった協議の場に参加することもあったが、現在のような広範囲の分野を横断的に巻き込むことになるとは、思いも及ばなかった。

将来を予測することは難しい。予測することが過去の「なめらかな延長」以上のもの



であることは殆ど不可能であろう。思いもかけないことを予見するというのは、そもそも形容矛盾だ。しかし、思いがけない事態によって大きく歴史が動かされるというのも、経験が示すところである。冒頭の情報学関連の新組織について言えば、そのような横断的な学問・研究分野を想定することが難しいということではない。それどころか門外漢の私でさえ、わくわくするような学問・研究分野をいくつも考え付く事が出来る。むしろ、そのような広範な背景をもつ人達の一

つの方向に統一する事が出来るとはとても思い及ばなかったのである。もちろん、そのような像を思い描き、強い意志をもった人達がいたから実際にそのような事ができた。しかし大きな変革のビジョンを多数の人が共有する事は、これも「形容矛盾」ではあるまいか。多数の部局に影響が及ぶような大きな変革を、あらかじめ書類として記録にとどめることができるかどうか。書くことが現実を規定することになってしまつては、元も子もない。

(先端科学技術研究センター 宮野健次郎)

(淡青評論は、学内の職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

◇広報室からのお知らせ

平成15年度「学内広報」の発行日及び原稿締切日を、東京大学のホームページに掲載しました。

URL: <http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/soumu/soumu/kouhou.htm>

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

No 1269

2003年7月23日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務課広報室 ☎ (3811) 3393

e-mail kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jpホームページ <http://www.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>